

鈴木有郷牧師 説教

8/9/09「イエスに癒されるということ」マルコ1:40-45

イエスは癒しの人でした。今日はイエスの癒しに関して二つのことを考えてみたいと思います。一つは、イエスによって癒されるとはどういうことかという問いです。もう一つは、癒された者の責任とは何かという問いです。

今日読んで頂いたマルコ1:40-45のエピソードに、私達はその答えを見出すことができます。

重い皮膚病を患った人がイエスの前に現れ、跪いて癒してくださいと願い出たという場面から、このエピソードは始まります。

イエスは男を憐れに思って手を差し伸べ、「清くなれ」と言います。すると皮膚病がなおり、男の体が清くなります。その彼にイエスは「行って、祭司に清くなった体を見せてあげなさい」と命じます。これがこの不思議なエピソードの概要です。

ここで私達が押さえておかなければならないことが、一つあります。それは、イエスの時代の皮膚病患者に対する社会的偏見は、想像を絶するものがあったという事実です。

旧約聖書のレビ記に重い皮膚病に罹った人の扱いに関する戒律が記されています。

「重い皮膚病にかかっている患者は、衣服を裂き、髪をほどき、口ひげを覆い、『私は汚れた者です。汚れた者です』と呼ばわらねばならない。この症状がある限り、その人は汚れている。その人は独りで宿営の外に住まねばならない。」

このレビ記の戒律には、二つの神学的前提が鮮明に打ち出されています。一つ、それは、神は皮膚病に罹った人とそうでない人を厳しく区別し、肌の清い人だけを愛し給うという前提です。

二つ、それは皮膚病に罹った人は、神から見放された人であり、救いようのない存在だ、という前提です。

「汚れている」という表現は、単に人の外見を指しているものではありません。それには、神に呪われている、神から見捨てられているという意味が込められているのです。

しかし、イエスは、神が人間を、愛される人間と愛されない人間の二種類に区別するという考えを徹底的に否定しています。イエスが、この男性に手を差し伸べたことからそれは明らかです。

イエスは、言葉をかけてもいけないし、触ってもいけないとされているこの男性の肩に優しく手を置いたのです。

イエスの癒し、それはこの人の皮膚病を治したということだけではありません。もし私達が超自然的現象だけに注目するなら、奇跡の人イエスは見えても、癒しの人イエスは見えてきません。

イエスの癒しの中核、それは、神に呪われた存在として社会から隔離されてきたこの男性を、イエスが無条件に受け入れたという点にあります。

想像してみましょう。肉親から見捨てられ、社会から隔離され、神からも見放されたと思って、絶望のどん底に陥っていた人が、イエスによって肩を抱かれたのです。

イエスによって癒されるとは、生きる勇気を失った人間が、イエスとの出会いを契機に、神によってそっくりそのまま受け入れられている自分を発見し、自己卑下と劣等感から解放され、力強く立ち上がることなのです。

ここで忘れてならないのは、癒された男が、イエスから一つの責任を与えられているという点です。それは、「行って祭司に清くなった体を見せてあげなさい。」というイエスの言葉に明らかです。

何故祭司に癒された体を見せるのでしょうか。祭司は、人を神の愛に値する人と値しない人に区別する宗教と、能力や社会的地位や財力や権力によって人をランクづけしようとする社会の象徴だからです。

癒された者には、人間を差別するすべてのものに向かって、強く「否」と言う責任が与えられているのです。人を差別する世界に対して、差別される人々を後ろに、大手を広げて立つという使命です。これが祭司に清くなった体を見せなさいというイエスの命令の実質的内容です。

それでは、日米合同教会に連なる私たちにとって、イエスの命令はどのような具体的な意味を持っているのでしょうか。

神への深い信頼の下に、ニューヨークの地において、この世と対称的な、平等で相互補完的な関係が確立された信仰共同体の形成に邁進すること、これであるに違いありません。日米合同教会がキリストの癒しの器となるように、これを盛り立てて行くことであるに違いありません。

これがイエスによって癒された私たちに与えられた使命です。責任です。喜びです。